

高等学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	㊦ 1		各 2× 5
	㊧ 4		
	㊨ 3		
	㊩ 2		
	㊪ 1		
問二	1, 4	全部合っているものだけを正答とする。	3
問三	2		4
問四	1		3
問五	2		4
問六	3		6
問七	隠喩を理解する過程において、話し手が隠喩として示した事物に対する心身態勢に沿って喚起された身構えで、隠喩の対象を見るようになるという変容。(69字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10
問八	コップが横になっているのを見た幼児が、自分の現在の経験と同じ型の経験を過去に探し、横たわって寝ている人を過去に「おやすみしている。」という言葉で表した経験と似ていると自覚し、その経験になぞらえて、「コップがおやすみしている。」と捉えている。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	14
問九	「冬は僕の餌食だ」という隠喩を含んだ表現は、冬を餌食にたとえることにより、餌食という野生動物に餌として食われるものというイメージを読み手に想起させ、それを冬に重ねることで、寒い季節という冬のロゴス的な意味とは別の意味の見方を抱かせている。このことは、単に冬に対する新たな見方を読み手に提示するだけでなく、それを受け取った読み手の感性の幅を広げることにもつながっている。 このように、優れた詩は、レトリックを駆使することによって、作者の身体的認識をなぞり、読み手の身体を場としてからだで納得させるという原初の意味生成の場に読み手を連れ戻し、読み手に新たなものの見方を与えてくれるだけでなく、読み手の世界認識の幅を広げてくれる。世界認識の幅の広がり、読み手の感性の幅を広げ、心豊かに生きることをもたらしてくれるということを強調しようとして、筆者は「生きること」と述べ直したのだと考えられる。	問いを正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	16

70

高等学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
三	問一	1, 3	全部合っているものだけを正答とする。	2
	問二	1		3
	問三	ア 4		各 3 × 2
		イ 2		
	問四	3		3
	問五	A おかしなことだなあ	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2
		C いつもうるさく申し上げなされるので		
	問六	姫君の祖父が、姫君を入内させようとしていること。(24字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	6
問七	中将の君の、姫君に懸想している様子。(18字)	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	6	
問八	中将の君が、姫君の祖母を姫君と間違えて自分の邸に連れ帰ってしまったこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	8	
三	問一	2		2
	問二	1		4
	問三	3		2
	問四	4		4
	問五	A 周の定王は、王孫滿に楚王を勞わせた	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい	各 4 × 2
		B 徳の美しいときは、鼎は小さくても必ず重いものである		
問六	楚王が、周の九鼎の大きさや重さを尋ね、楚にも九鼎を造るぐらいの力があることを示し、周を威圧してきたことに対して、王孫滿は、九鼎を持てるのは徳のある君主だけであり、九鼎がまだ周にあるという天命も改まっていないとして、楚王が周王を脅かそうとすることを断念させようとしたから。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10	
四	問一	2		4
	問二	4		4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
<p>五</p>	<p>私は、〈ポスターQ〉が最優秀作品としてふさわしいと考える。その理由として、ポスターの構図やコピーが見る人の心を揺さぶり、この問題の深刻さを直感的に悟らせる力をもっていることが挙げられる。</p> <p>〈ポスターQ〉でまず目を引くのは、大きく描かれたクジラである。クジラは目を閉じ、波打ち際で眠っているように見えるが、その横に添えられた「最期の晩餐」という言葉によって、それが死んで打ち上げられたものであることが分かる。</p> <p>「最期の晩餐」という言葉は、このポスターの作り手が、レオナルド・ダ・ヴィンチの作品である「最後の晩餐」をベースにしていると考えられ、有名な作品であるだけに、見る人にも比較的容易にその意味するところが理解できる。</p> <p>また、その「最期の晩餐」が「6キロのプラスチック」であったとすることで、いたたまれない気持ちをかきたてる効果がある。クジラの死因とプラスチックの関係は不明だが、命の尽きる最後に口にしたものが、ごみであったという設定は、人間の感覚でいえば耐え難いものであると想像できる。</p> <p>最後に、「海に流れ込んだプラスチック」によって、多くの生命が失われるという事実を小さな文字で簡潔に示し、多くを語らずとも、クジラに起きた不幸が人間の所業によるものであると結び付け、どの人にとっても他人事ではないのだということを強調し、見る人に自覚を促す働きがある。</p> <p>一方、〈ポスターR〉は魚に見立てたペットボトルや、クラゲのようなレジ袋を魚とともに配置し、「新種発見？」とコピーを付すことで見る人に斬新な印象を与えるところが特徴である。</p> <p>また、「新種発見」は、作り手の皮肉が強調されていると考えられ、その下の「このままでは将来、海中のプラスチックの量が魚の量を上回る」という情報と合わせて、あたかも外来種が在来種の生態系を破壊してしまうほどの深刻さがあるものとして、海洋プラスチックごみ問題を提起している。</p> <p>さらに、「使い捨てプラスチックによる海の汚染」という情報を入れることで、飲食店やコンビニなどで提供されるストローやスプーンを想起させ、自分たちの身近な所から問題が発生していることが分かるようになっていく。</p> <p>〈ポスターQ〉と〈ポスターR〉を比べると、人の感情に訴えかけるという点では、〈ポスターQ〉の方がインパクトが強いといえる。〈募集の趣旨〉に「力強いメッセージを伝える」とあり、〈ポスターQ〉のクジラの死骸の大きな図と、簡潔でありながら要を得たコピーを通して強いメッセージを発しようという作り手の意図がよく伝わってくる。〈ポスターR〉は斬新な構図が目目を引くが、説明が丁寧で分かりやすいだけに、インパクトの点では〈ポスターQ〉の方が印象が強いといえる。</p> <p>以上のことから、私は、〈ポスターQ〉を最優秀作品として推挙する。</p>	<p>〈ポスターR〉を選択してもよい。問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>50</p>